

環境経済学 2007 年度 中間試験

レポート論題

「環境問題を解決する上で、環境規制、環境訴訟、環境税、排出権取引などの政策手段が考えられるが、それぞれの特徴と問題点について議論しなさい。なお、経済モデルを用いて説明し、また経済実験の結果をふまえて議論すること。」

用紙指定 A4用紙のみ(横書)

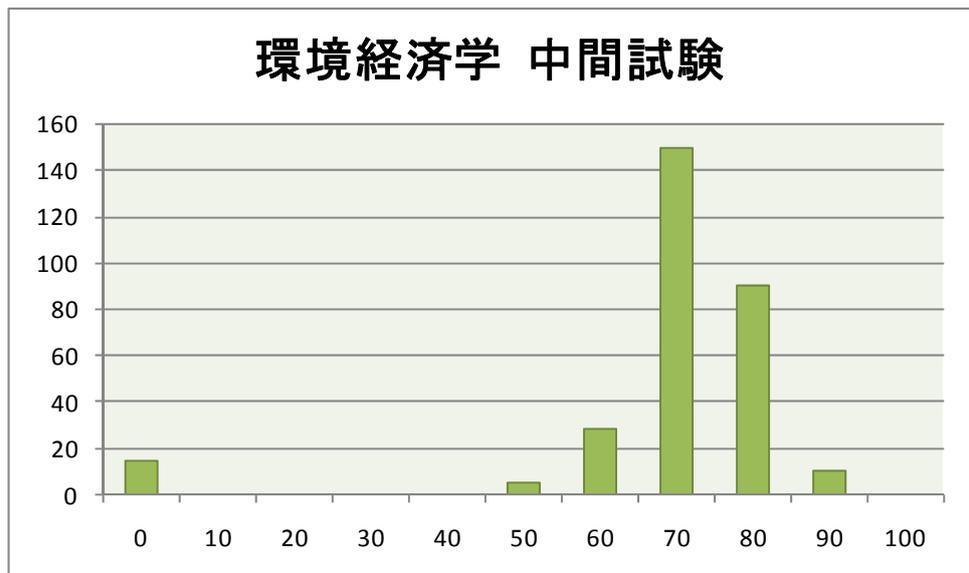
字数制限2000 字以上

枚数制限A4用紙5 枚以内

採点基準

- ・環境規制、環境訴訟、環境税、排出権取引の各政策手段の特徴と問題点に関する説明(各 10 点×4)
- ・それぞれの政策手段の経済モデルによる説明(各 10 点×4)
- ・経済実験の結果をふまえた考察(10 点)
- ・論理的に議論が展開されているか(10 点)

平均点 74.7 点



環境経済学 2007 年度 期末試験

以下の各設問に答えなさい。回答欄が足りないときは「裏面に続く」と書いて裏面を利用すること。

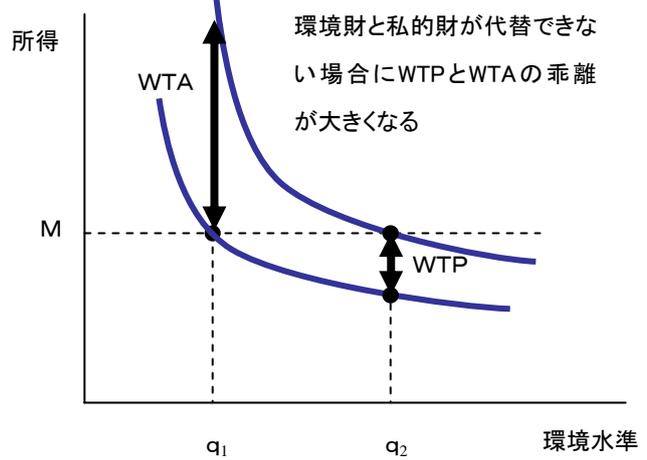
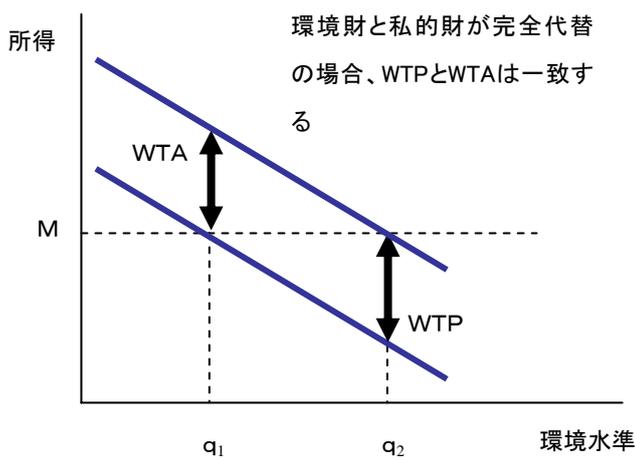
問1 支払意志額と受入補償額について説明しなさい。また、両者に差が生じるときと、生じないときがあるが、その理由を経済モデルを用いて説明しなさい。

問2 ヘドニック法について経済モデルを用いて具体的に説明しなさい。

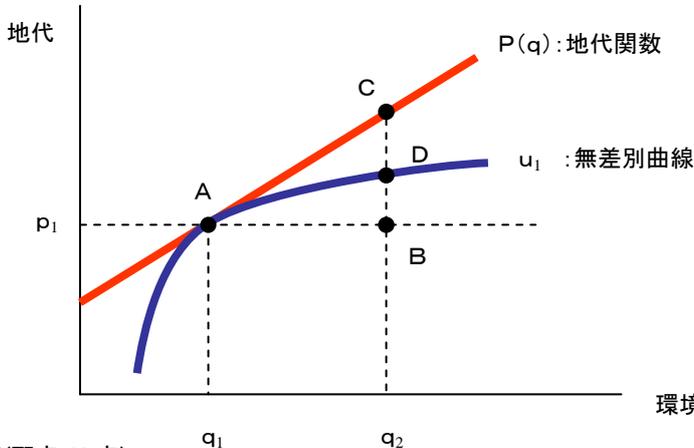
問3 死亡リスクを経済的に評価する方法と、評価結果を用いる際の注意点について具体的に説明しなさい。

問1(配点 30 点)

支払意志額と受入補償額の説明 10 点, WTP と WTA の乖離の説明 20 点

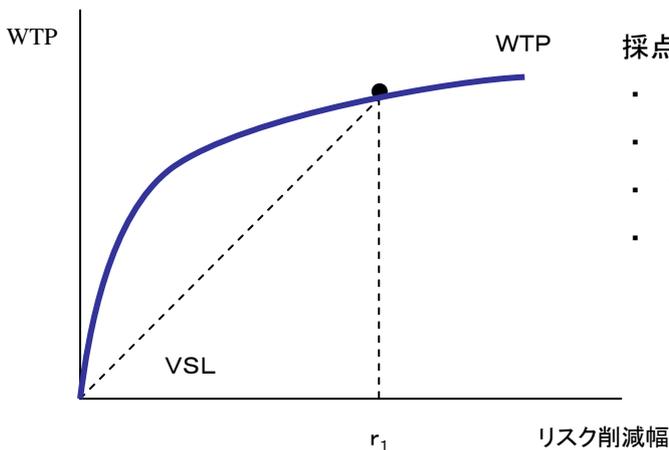


問2(配点 30 点)



ヘドニック法の説明 10 点
 グラフを用いた説明 20 点
 WTP = BD, ヘドニック法による評価額 = BC
 CD だけ過大評価となる

問3(配点 40 点)

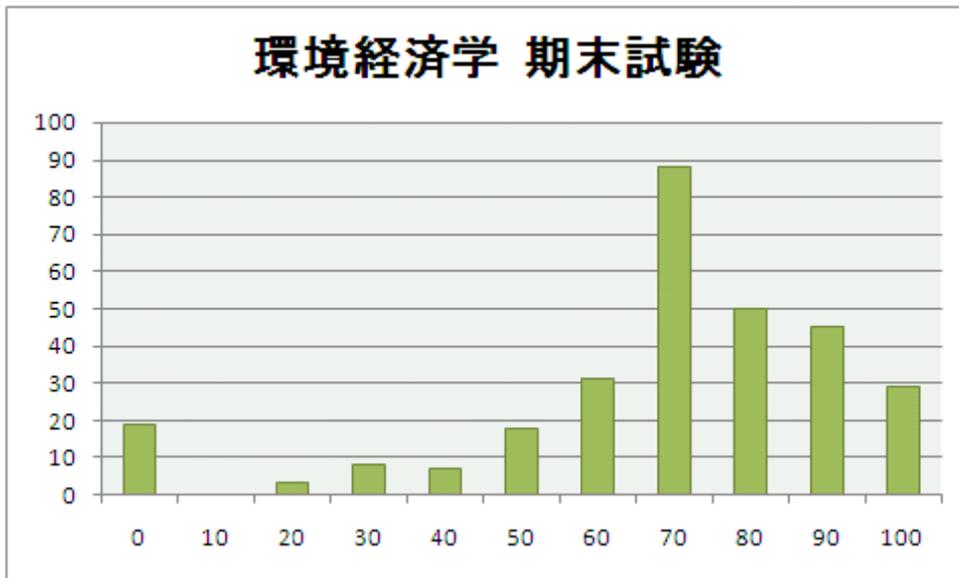


採点のポイント

- ・ VSL の説明, 定義
- ・ グラフによる説明
- ・ VSL を評価する方法の説明 (CVM またはヘドニック法)
- ・ 注意すべき点 (アンケートによるバイアスなど)

環境経済学 期末試験 配点と平均点

	問 1	問 2	問 3
配点	30	30	40
平均点	28.0	27.0	18.4



成績評価

中間試験（100点）＋期末試験（100点）＋課題提出（20点）

以下の割合で相対評価

秀	優	良	可	不可
8%	16%	38%	30%	8%

注：不受験者は含まず